

令和元年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

第13回・14回研修会

○日時 令和2年2月17日（月）18日（火）9：20～16：30

○場所 桃生公民館 視聴覚室・文化ホール ○講師 広島大学大学院 栗原慎二 教授

●17日の研修

【実践発表：協同学習】

山下小 田中 浩司教諭

研修Ⅰ「協同学習応用編」

研修Ⅱ「ピア・サポート応用編」



●18日の研修

【実践発表：PBIS】

向陽小 北原穂高教諭 大谷地小 松川弘徳教諭

鹿又小 松川幸浩教諭 石巻中 伊藤拓巳教頭

研修Ⅲ「中学校区の取組みの振り返りと来年度に向けて（協議）」

研修Ⅳ【モデル校実践発表】

中津山二小 木村 英之教諭 豊原 秀樹教諭

西村 浩道教諭 横田 英里教諭

桃生中 中島 敏子教諭 津田 明教諭

三浦 玄太教諭 武山 友里恵教諭

志賀 優香教諭 堀切川 優希講師 大場 友教諭

【栗原先生の助言から(協同学習)】

- ① 田中先生の実践は、アセスから「学級の実態」と「個人の実態」をとらえ、授業計画に生かしている。また、アセスを生かした学習班の編成(向社会性の高い児童を中心に)を組んでいることは、他の学校にも参考となる取組である。
- ② 校内で活用するならば、低学年にもアセスをとってみてもよい。(3年生用を使用)。しかし、出てくる数値は低めにとらえる必要がある。
- ③ 協同学習において、振り返りの視点を「学習内容」と「学び方」の2つを示すことは大切である。「学び方」はあくまでも「目標」であって、「目的」ではない。先生方は「成長支援」をするのであって、「適応支援」をするのではない。
- ④ 協同学習の取組により、上位層と下位層は伸びていく。中位層が伸びない傾向がある。中位層に対し、どのようにしてこ入れをするかが今後の課題である。



【栗原先生の助言から(PBIS)】

- ① シールやカードで評価をするが、いつも評価できるとは限らない。段々とシールをもらえることが目的でなくなるような仕掛けをしていくとよい。「行動」を評価するのではなく、「価値」を評価すること。
 - ② 縦割り活動は、欠点となるものは見当たらない。ただし、6年生はいつも大人として扱われ、望まれているため、「子ども」として活動する時間も大切にしてほしい。
 - ③ 校内研修において、子どもたちをどのように育てたいか、どんな課題があるのかを話し合い、自校化に取り組んでいることが素晴らしい。
- ※ 「成長マインドセット」は、児童生徒にも、先生方にも大切な視点です。

【モデル校実践発表：取組や成果について】

☆中津山二小

- ・アセスを低学年においても実施。さらにSEL-8Sアンケートも実施し、留意する児童について指導の方向性を立てている。
- ・「協同学習」では、ペア学習や3人学習の学習スタイルを実施した。
- ・不登校傾向や登校時ぶりの児童は、登校日数が増え、改善のきざしが見えてきている。
- ・縦割り班活動や学校行事でのピア・サポート活動が行われた。委員会レベルのピア・サポート活動も取り組み始めている。

☆桃生中

- ・SEL 部作成の「動画」で、生徒にターゲットスキルをつかませている。これは「感情の追体験」である。相手の感情を察知するスキルが育っており、教師が気付かない視点まで目を向ける生徒がいる。
- ・SEL で学習したスキルが生徒指導に活かされている。
- ・対人関係スキルが向上し、対話しながら問題解決をしたり、自分の考えを広げたりすることができている。



PBIS の実践発表では多くの質問が寄せられました。



来年度の PBIS の取組について中学校区で話し合いました。



モデル校の実践発表の様子



取り組んでいただきたいこと

○「一つ上の協同学習」を目指す上で、「対話すること」だけに留まらず、自分で学びに向かわせるためにも「振り返り」をさせるようお願いいたします。また、多くの先生方が悩まれている「いい課題」について、学年や教科の先生方で、検討いただきたいと思います。

なお、向陽小学校のホームページには、今年度の研究成果として「実践事例集」を掲載しております。また、今回発表いただきました山下小学校の田中先生の資料も授業づくりの参考となるものです。ぜひ御覧いただき、詳細については、各学校に問い合わせさせていただきたいと思います。